

さいたま ごちゃまぜの会

# コミュニティカフェができること



ヘルシーカフェのら大家 小峰 弘明

2023年8月26日（土）10：00～12：30

# コミレス構想への共感

2005年3月

## 「コミレス」は 子育て支援の 要

埼玉県  
新井純子  
ARAI Junko



これじゃ産めない、  
育たない  
子育て改革懸賞レポート

1が聞かれる。写真展やビデオ上映会も開催される。若者がレストランの料理をしたり、サーブをしながら、先輩の大人たちに社会のルールを教わる。彼らは鍛えられ、どこに行っても、だれとでもコミュニケーションがうまくとれるので、使える人になる。真の大人になる。

この町に住みはじめたばかりの人でも、コミレスに來さえすれば、必要な情報を得ることができ、仲間ができる。職場からくたくたになって帰ってくる父や母のために、有機野菜の各種お惣菜がならんでいる。食べて帰ってもよし、持ち帰ってもよしだ。保育園のお迎えに間にあわないときは、そこに來ているだけがお迎えに行く。学ぶことと暮らしの場での実践は、どちらが欠けてもいけないから、学習会や話しあいはパンパン開かれる。人が人を呼び、知恵が知恵を生む。そんな空間だ。保育園を増やし、保育時間を延長するだけが子育て支援ではないし、子育てサロンのようなサービスだけが母親の心のケアをするとも思わない。私が考える子育て支援は、すべての人たちをも支

援するしくみだ。

だれでも、人は「力」をもっている。みんなちがっているから豊かで、楽しく、活気に満ちた、住んでうれしい町となる。「私サイズ」「私流」でもちゃんとおたがいが、力のだしっこをし、どの人も生かされる関係だ。そんな地域ができればいいと思う。

現在私は、「コミレス」実現に向けて会う人にこの話をしている。

地産の野菜を売ってくれる人、料理をつくってくれる人、パソコンができる人、マツサージができる人、人にサービスをするのがうれしい人、大工仕事やうまい人、歌のうまい人、縫い物がうまい人、元気に日々をすごしている人、県や市の行政職員、NPOの人たちと、いろんな人との出会いを積極的に行っている。

おいしいご飯を食べるときは、どんな人でもうれしそうに顔をする。それにおしゃべりがつけばさらにいい。そんな場所、コミレスをつくっていくことが、私の子育て改革の提案だ。

そこで、私がこれからつくりたいと思っているのは、コミュニケーションレストラン、通称「コミレス」だ。そこには、いろんな人たちがやってくる。ひとり暮らしのおじいさんがやってきて、ご飯を食べながら昔とつた杵柄を話す。そうすると、みんなから「すごい」といわれ、こどもたちと大工の仕事がはじまる。おばさんが子育て中の若いママにパソコンを教えてもらいにくる。そのあいだ、別の人がこどもの世話をする。あるいは、こども同士で遊ぶ。ときにプレ更年期教室や起業セミナー

## そこには、いろいろな人たちがやってくる。

- ・ひとり暮らしのおじいさんがやってきて、ご飯を食べながら昔とった杵柄を話す。そうすると、みんなから「すごい」といわれ、こどもたちと大工の仕事がはじまる。
- ・おばさんが子育て中の若いママにパソコンを教えてもらいにくる。そのあいだ、別の人がかどもの世話をする。あるいは、こども同士で遊ぶ。
- ・ときにプレ更年期教室や起業セミナーが開かれる。写真展やビデオ上映会も開催される。
- ・若者がレストランで料理をしたり、サーブしながら、先輩の大人たちに社会のルールを教わる。
- ・この町に住みはじめたばかりの人でも、コミレスに来さえすれば、必要な情報を得ることができ、仲間ができる。

- ・ 職場からくたくたになって帰ってくる父や母のために、有機野菜の各種お惣菜がならんでいる。食べて帰ってもよし、持ち帰ってもよしだ。
- ・ 保育園のお迎えに間にあわないときは、そこに来ているだれかがお迎えに行く。
- ・ 学ぶことと暮らしの場での実践は、どちらが欠けてもいけないから、学習会や話し合いはバンバン開かれる。

## 人が人を呼び、知恵が知恵を生む。そんな空間だ。

- ・ 保育園を増やし、保育時間を延長するだけが子育て支援ではないし、子育てサロンのようなサービスだけが母親の心のケアをすることも思わない。
- ・ 誰もが立ち寄れる「コミュニティレストラン」で、子育て中のパパ・ママ、高齢者、若者などすべての人たちを支える仕組みづくりをしたい。

# その頃の実家の状況 2005年3月



母が一人暮らしとなり、空き部屋は荷物置き場に  
亡父が行っていた庭の手入れも困難に



「実家の庭」で「コミレス構想」を実現できないか？

# 4年間の準備～コミレス開設 2009年11月



◇高齢者、障害者、子どもといった対象者別ではなく、様々な人がゆるやかにつながれる場が必要

◇レストランという形をとれば、様々な人がつながりやすい場ができるのではないかと

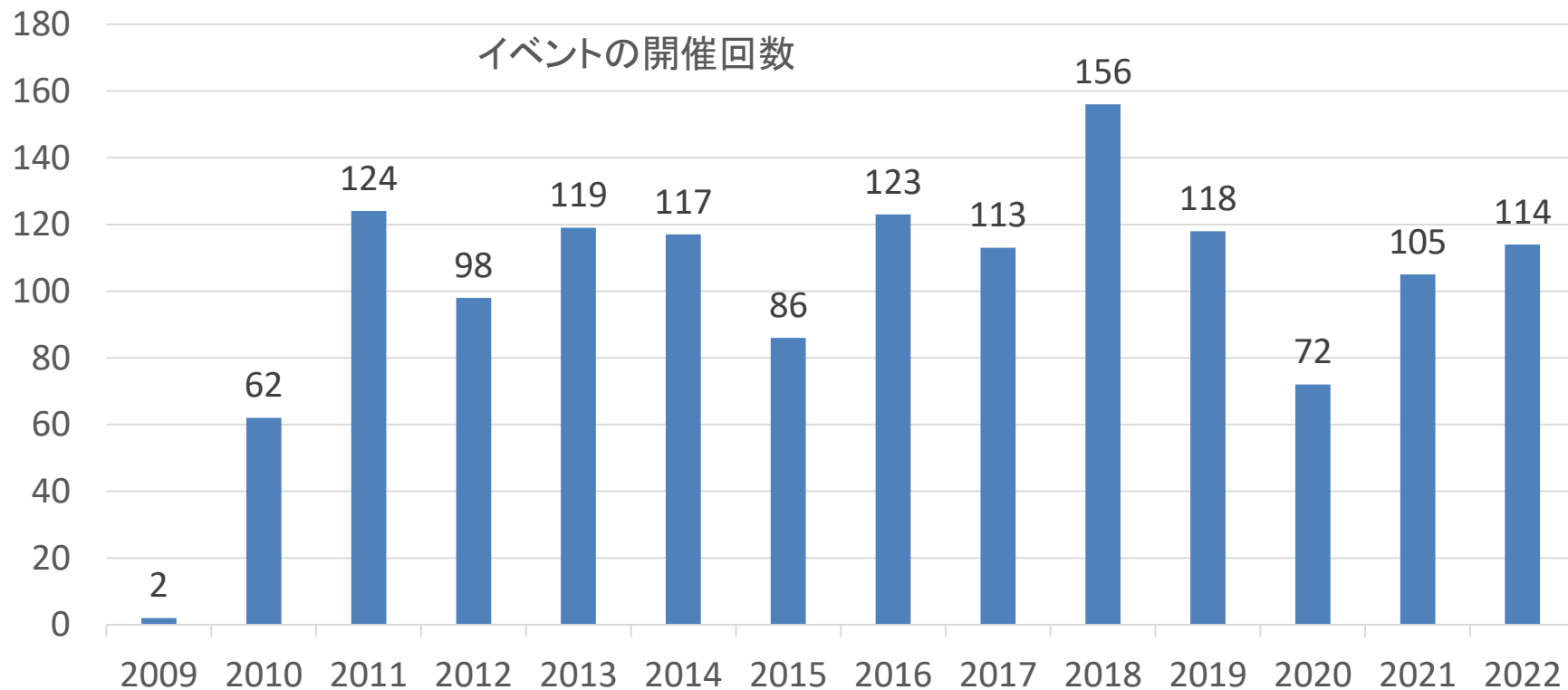
◇立場も意見も違う人たちが、持っている力を自然に出し合えて、その力が活かされる場が必要

のらの14年間

2009年11月～2023年8月

◇地産地消の野菜を中心としたランチを日々提供

◇215人の主催者が延1,500回の講座・WSを実施



# のらの14年間

# 2009年11月～2023年8月

◇様々な人がゆるやかにつながれる場を提供することで、のらでの新たな出会いなどから、  
新たな一歩を踏み出すことを応援

- ・利用者⇒講座・WSの定期主催者
- ・専業主婦⇒のらの調理長
- ・ティータイムの利用者⇒のらの調理人
- ・常連客⇒のらのボランティアスタッフ
- ・2Fアパートの住人⇒のらのボランティアスタッフ
- ・自宅で料理教室を主宰⇒月3日、のらでもランチを提供



# 困りごと・つながりたいこと

のらの「場」を使って、何か楽しい「企て」をしませんか？



テーブル席



広場



バーカウンター

# 空き家を活用した居場所づくり 大家の4か条

1 店子の繁栄なくして大家の繁栄なし。店子の夢の実現に向けて、常に応援者となる。

2 住まい方は大家が押し付けず、店子のスタイルに合わせる。店子の創意工夫により、物件の付加価値を高め、家賃収入を維持する。

3 思い立ったが吉日。退職などを待たず、思い立った時に始める。

4 大家も横のつながりが大事。「大家カフェ」などの情報交換の場をつくる。